

9月5日 マタイによる福音書18章 10～20節 今日の説教から
説教題：「帰っておいで、小さなひつじ」

「働くもの食うべからず」ということわざがあります。実はこれは、聖書の言葉がもとになっています。この要旨の裏面下側に記載しているテサロニケの信徒への手紙二3章10節には、「実際、あなたがたのもとにいたとき、わたしたちは、『働きたくない者は、食べはならない』と命じていました」と記されています。「自分で得たパンを食べるよう、落ち着いて仕事をしなさい」と続くこの言葉は、とても素直に「働ける人はちゃんと働きなさい」とだけ語り掛けています。ここでは働くのに働くとしない怠惰な姿勢だけが非難されていて、例えば貧しい人々が誰かに支えられて生きることへの問題視や、奴隸を働かせる主人を問題視するような意味は含んでいません。ただ、この言葉は「労働は尊い」という意味に捉えられ、カトリックの修道院の原則になったり、「不労所得で生計を立てる資産家に対する非難」として捉えられ、社会主義の柱として有名になったりと、時代によって様々な受け止められ方をしています。

このように、聖書の言葉は時代や背景によって受け止め方が変わり、意味すら変わってしまいます。私たちも、自分の言いたいことの根拠として聖書を引用していないか、聖書の言葉を口にするときには必ず「自分」というものが神様の言葉の邪魔をしていないか気を付けながら聖書を読む必要があります。教会の信徒が羊としてたとえられて、イエス様が羊飼いとしてたとえられるように、私たちは間違った考えによって容易に「一匹の迷子の羊」になってしまふのです。

今日の聖書箇所では、私たちキリスト者が「小さなもの」として、子どものような素直な心を持ち、父なる神を自分の父親として全幅の信頼を寄せてこそ信仰者に必要な態度だと言っています。それを詳しく説明するために、「失われた1匹の羊」がたとえとして用いられています。ここに示されているのは、羊が1匹でも欠けることを良しとしない、つまり私たち人間すべてが信仰に入って救われてほしい、と願う神様の御心と、それに従って信仰から外れた人を連れ戻そうと全力を尽くすイエス様の姿です。十字架にかかるでも、この世における命のすべてを使ってでも、「すべての人々を信仰に導き救う」という目的を貫いたイエス様によって、私たちは常に神様の備えた群れに戻るように導かれています。羊のように素直だからこそ外敵に襲われやすく欲望に負けやすい、そんな小さな存在として指摘される私たちキリスト者は、しかし神様に守られて、イエス様が直々に連れ戻しに来てくれるほどに大切にされているのです。

同時に、私たちは実際の羊が「最初に動いた羊について行ってしまう」習性があるように、悪い意味で協調性を発揮して集団で罪に陥ってしまわないように気を付けなければいけません。多数決のように、大勢がそうだと言っているからといってそれが正しい保証はありません。イエス様が迷い出た羊を探しに行く間に、すべての羊が自分勝手に行動することを神様は望んでいません。そうではなく、私たちは誰に見られていなくても、キリスト者として神様の御心に従って歩む素直さが求められているのです。

私たちが罪を犯し、信仰を忘れてしまいそうな時に、「帰っておいで」と語り掛けてくれるのはイエス様の言葉です。その言葉に従えば、私たちはまた正しい信仰へと立ち返ることができます。だからこそ、私たちは常に聖書の言葉に耳を傾けて、自分が間違った方向に進んでいないかを確かめ続けなければいけないのです。日々聖書の言葉によって信仰を支えられる喜びを胸に、今週一週間の、これから歩みを共に進めましょう。

今日の説教箇所：マタイによる福音書18章 10～20節

- 10:「これらの小さな者を一人でも軽んじないように気をつけなさい。言っておくが、彼らの天使たちは天でいつもわたしの天の父の御顔を仰いでいるのである。（人の子は、失われたものを救うために来た。†）あなたがたはどう思うか。ある人が羊を百匹持っていて、その一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、迷い出た一匹を捜しに行かないだろうか。はっきり言っておくが、もし、それを見つけたら、迷わずに入れた九十九匹より、その一匹のこととを喜ぶだろう。そのように、これらの小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない。」
- 15:「兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい。言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる。聞き入れなければ、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。すべてのことが、二人または三人の証人の口によって確定されるようになるためである。それでも聞き入れなければ、教会に申し出なさい。教会の言うことも聞き入れないなら、その人を異邦人か徴税人と同様に見なしなさい。
- 18:はっきり言っておく。あなたがたが地上でつなぐことは、天上でもつながれ、あなたがたが地上で解くことは、天上でも解かれる。また、はっきり言っておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」

テサロニケの信徒への手紙二 3章 10～12節

実際、あなたがたのもとにいたとき、わたしたちは、「働きたくない者は、食べてはならない」と命じていました。ところが、聞くところによると、あなたがたの中には怠惰な生活をし、少しも働かず、余計なことをしている者がいるということです。そのような者たちに、わたしたちは主イエス・キリストに結ばれた者として命じ、勧めます。自分で得たパンを食べるよう、落ち着いて仕事をしなさい。